

# イギリス留学を通して

山 田 一 美

毎年6月になると、スイスでのバイブルスタディキャンプを思い出します。きっかけは、イギリスの大学院で同じ授業をとっていたクリスチャンのクラスメートでした。その時期はみなMA論文執筆の真っ最中であつたにもかかわらず、「ぜひ行きましょう。環境も変わって、いい気分転換になりますよ。」という彼女の明るい一言に、不思議にすぐ賛成してしまいました。

チューリッヒ空港から何度か列車を乗り継ぎ、最後はロープウェイに乗り、キャンプ地であるインターラーケンのホテル施設にたどりつきました。もともとこのホテルの場所は牧師養成の学校だったそうで、すばらしいアルプスの山々に囲まれていました。私たちが着いたのはキャンプ2日目あたり、日本からの教会のみなさんがちょうど食堂で楽しく夕飯をとられていた時です。彼女はすでに日本でその教会に10年以上属していましたが、私は初めてでしたので、牧師さんがすぐにみなさんにご紹介くださいました。イギリスからやってきた私たちをみなさん大変興味深い眼差しで見えらっしゃったのを覚えています。

夕食後はフリーで、いろいろな方たちとお話しました。ごく普通に、イギリスの教会へ通っていること、バイブルスタディに参加していること、さらに勉強がとてもハードなことなどをお話し、聖書の内容についても質問したり考えたりしていました。その夜、本当に自然にこれまで自分が神様を心の中に置いていなかったという思いが大きくなり、信じられないことに、次の日が私の受洗の日になりました。

大学院を卒業後、彼女はアメリカ人の経済学者の方と結婚して現在はシアトルに住んでいます。つい先日、思いがけず帰国の連絡をもらい再会が叶いました。留学当時のことを回想する中で、バイブルスタディキャンプで起こった突然の出来事については、本当に驚いたと今でも話題になりました。そして、近況を互いに報告した後、彼女が言ったことは「いろいろなことがありますけど、考えれば考えるほど、やはりイエス様の恵みは増し加わるばかりですね」。当時と全く変わっていない彼女の信仰を大変うれしく思い、再会の機会を与えてくださった神様に心より感謝しました。

\*詩篇136:1 恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

(理工学部専任講師)